

エアマットの正しい活用促進

2023年度業務改善活動報告

5階病棟 志村真友子 杉原芽衣

褥瘡形成にいたるまで

褥瘡の定義「身体に加わった外力は骨と皮膚表層の間の軟部組織の血流を低下、あるいは停止させる.この状況が一定時間持続されると組織は不可逆的な阻血性障害に陥り褥瘡となる.」¹⁾

褥瘡の発生には、外力(皮膚の圧迫)や皮膚と軟部組織のずれによって生じる①阻血性障害、②再灌流障害、③リンパ系機能障害、④細胞・組織の機械的変形が複合的に関与する。

▶ 褥瘡の予防と管理には外力に対する介入が重要である。

¹⁾日本褥瘡学会 科学的根拠に基づく褥瘡局所治療ガイドライン,東京,照林社,2005,112

褥瘡リスク

褥瘡形成危険因子として、以下の要素が挙げられる(厚生労働省褥瘡危険因子評価表より)

- ▶ ベッド上での自力体位変換の可否
- ▶ 椅子上での座位姿勢の保持、除圧(車椅子での座位を含む)の可否
- ▶ 病的骨突出の有無
- ▶ 関節拘縮の有無
- ▶ 栄養状態低下の有無
- ▶ 皮膚湿潤(多汗、尿失禁、便失禁)の有無
- ▶ 皮膚の脆弱性(浮腫)の有無
- ▶ 皮膚の脆弱性(スキンケアの保有、既往)の有無

5階病棟の特徴

- ▶ 内科、皮膚科、緩和ケア科、整形外科等を有する成人混合病棟である。
- ▶ 患者層として全体的に高齢であり皮膚脆弱性や関節拘縮、骨突出あり。重症度が高く、終日ベッド上で生活され自己体交・除圧が困難な患者が多い。オムツ内失禁であることが多い。
- ▶ 皮膚科病棟特有の多発褥瘡をはじめとする既に褥瘡を有する患者や、皮膚疾患により皮膚が脆弱である患者が多い。
- ▶ 終末期の患者は、主要臓器が機能不全に陥り全身の血液灌流が低下することにより、皮膚への酸素・栄養・水分バランスが崩れた結果、皮膚が菲薄化しバリア機能が低下、外的刺激を受けやすい皮膚状態にある。

褥瘡リスク

患者層や診療科特有の褥瘡リスクが高いといえる。

褥瘡を予防するために下記ケア、観察を実施

- ▶ 高リスク患者へ優先的にエアマットを使用
- ▶ 除圧、体交の介助(自動体交モードの活用や時間を定めてルーティン化)
- ▶ 保湿剤のこまめな塗布(入院時に家族へ購入依頼)
- ▶ ピンクグローブの活用(使用中の患者をリスト化)
- ▶ オムツ交換の時間を定めてルーティン化

現在5階病棟で使用中のマットレス

▶ ステージア

エア層と底付き層で背上げ時のずれに対応、体重設定が不要、端座位で安定

▶ ネクススR

体圧分散と安定感、自動ヘッドアップ対応機能でずれや圧を軽減

▶ ラグーナ

スモールチェンジ機能、自動ヘッドアップ対応機能でずれや圧を軽減

▶ オスカー

2種類の除圧性能、自動体位変換機能

エアマットの活用方法

適切にエアマットを使用することで褥瘡予防、既に保有する褥瘡の改善を図る。

【取り入れた方法】

電子カルテ上の経過表の観察項目欄に「エアマットの電源確認、ふくらみ」を作成。目視と実際に触れて、正しく使用できているかを各勤務帯で確認する。

(各勤務帯のラウンド時に確認し、問題なければOKと記載。)

- ▶ エアマットの安全で適切な使用を促す。
- ▶ エアマットを使用している(=褥瘡リスク有)と意識づけが可能となる。

まとめ

- ▶ 引き続き、エアマット使用患者の経過表に観察項目を追加し、外力管理の意識づけを行っていく。
- ▶ 褥瘡予防を心掛けることで、入院患者の皮膚状態の向上、安全安楽な生活につながる。
- ▶ 褥瘡リスクのある患者に適切なエアマットを使用することにより、褥瘡形成を予防するよう努めていく。